

## 当院における介護福祉士の雇用に対する期待と課題

看護副部長 井上より子



2010年度の診療報酬改定では「急性期看護補助加算」が新設され、当院でも看護補助者の適正配置や教育研修の充実に取り組んでまいりました。一方で、入院患者の高齢化は進み生活能力や心身機能の低下などによる見守りやケア介入が増大してきている現状があります。

看護部では、チーム医療の中で「多職種との連携と協働」というスローガンのもと、入院患者の安心と安全を確保する事を目的に2016年2月より介護福祉士の雇用が始まりました。

そして2016年の4月から「夜間看護体

制加算」算定に取り組み、11月からは「100対1急性期看護補助加算」の施設基準が「50対1」に上がりました。現在、平均年齢31.1歳(26歳～40歳)の介護福祉士9人が配置され、看護職だけでは手が行き届かない細やかなケア支援等により看護業務の負担軽減に繋がっています。

介護福祉士も、当病院の「思いやりの医療を提供する」という理念に基づき、「患者さんが喜んでくれる」「元気で帰れる」事にやりがいを感じながら個々に寄り添い個別性を重視したケア介入に邁進しています。

また、認知症患者へのチームケアでは細やかな配慮や気づきのある関わりを行うことでより充実した入院生活ができると期待されます。

今後は介護福祉士自身がケア支援の可視化を行い、患者の生活を支える為の具体的なアドバイスが求められます。個別ケアやチームケアの向上を目指した介護福祉士達の役割拡大に繋がればと思います。また、「多職種との連携と協働」による細かい情報共有ができる雰囲気づくりに取り組み「当院で働くケアワーカーとしての誇り」が実感できることを目指してまいります。

## 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の役割

5N病棟 師長 豊崎陽子



脳卒中は世界的にみても主要死因のみならず、障害をもたらす最大要因となっており、その対策は保健衛生上の最優先課題の1つとして注目されています。

わが国においても、日本人の死因の第4位、寝たきりになる原因疾患の第1位です。2025年には高齢化率が30%を超えと言われており、今後、脳卒中患者増加が予測されます。

一方で急性期病院の在院日数の短縮化により、医療依存度の高い患者が在宅に移行するとも予想されます。そのような背景から専門的な知識と技術を持った看護師へのニーズが高まり、急性期から生活期を見据え、「救命」と「生活の質(QOL)」の2つのどちらも守る看護を提供できるアセスメント力と技術力を持った脳卒中リハビリテーション

看護認定看護師が誕生しました。当院では豊崎が2016年6月に資格を取得しました。

主な役割として

- ①重篤化回避のためのモニタリングとケア
- ②一貫した生活再構築へのプロセス管理
- ③適切なリハビリテーション看護実践
- ④患者の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護実践などがあります。

各病棟に点在していた脳卒中患者は1ヶ所の病棟に集約されるようになりました。

「急性期から生活期において、その人らしく可能な限り質の高い生活が継続できるようサポートする」ことをミッションとして掲げ、引き続き努めてまいります。

当院では、より高度で専門的な看護

の提供を目指し認定看護師を揃え、安全安心な看護ケアの質の向上を目指してきました。

医師・看護師・セラピスト・MSW等、各職種の専門性を理解し、切れ目のないチーム医療を推進するコーディネーターとして、地域医療に貢献できるよう奮励努力して参りますので、関係の皆様との連携、交流を宜しくお願い申し上げます。

6月には、当院職員だけではなく、その他医療機関の方も対象にした公開講座を企画しております。ご参加お待ちしております。